

## 第56回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告② — Continuing Education Courses に参加して —

科研製薬株式会社 薬物動態・安全性部 真田 尚和



第56回 SOT 学術年会は、メリーランド州ボルチモアの Baltimore Convention Center で開催されました。私は日本毒性学会の SOT 教育コース派遣事業の一環として「Current Principles for Nonclinical Chronic Toxicity/Carcinogenicity Testing of Environmental Chemicals」および「Health-Based Limits for Toxicological Risk Assessment: Setting Acceptable Daily Exposures for Pharmaceutical and Chemical Safety」の2つのコースを受講させていただきました。当期間は季節外れの寒波に見

舞われましたが、学会には非常に多くの研究者が参加し、熱意のある議論が行われていました。前者の教育コースでは、発がん性試験デザインや NTP を例に挙げた病理評価プロセス等の実用面での教育に加えて、レギュラトリーからの発がん性あるいは慢性毒性試験の評価、IARC における発がん性物質の分類まで、各分野の講師による幅広い内容を受講することができました。後者では、化学物質の共有製造施設における交叉汚染防止の観点から、一日許容曝露量を使用したリスク評価に関する教育でした。従来のリスク評価では、あらゆる化合物に適用できるデフォルト値が広く用いられてきましたが、本コースでは、科学的根拠に基づいた化合物毎のリスクベースアプローチの重要性が示されました。5名の講師から、一日許容曝露量を求める上での留意点として、①毒性学的データの評価、②トキシコキネティクスあるいはトキシコダイナミクスの情報を用いた補正係数の化合物専用化、③異なる投与経路への外挿等を体系的に説明いただき、非常にわかりやすくリスクアセスメントに関する理解を深めることができました。

今回、SOT 学術大会に参加させていただき、教育コースばかりでなく学術講演等を聴講することができ大変勉強になりました。また、業界最先端の情報が得られたことや、海外の研究者との情報交換等、国際学会ならではの大変貴重な経験をすることができました。最後に、このような機会を与えて下さった日本毒性学会教育委員会および事務局の皆様、また、SOT 参加にあたりご協力いただきました関係者の方々に、心よりお礼を申し上げます。

